

世界 LNG 動向 2020 年 4 月

橋本裕*

はじめに

日本の、2020 年 1-3 月分 LNG 輸入量は、2136 万トン・前年同期比 3.7%減・83 万トン減となり、韓国は 20%増・209 万トン増と好対照となった。日本の 3 月分は、721 万トンと、6 ヶ月連続で前年同月比減少となり、震災直後の 2012 年の水準を下回る傾向が定着している。なお日本の 2019 年度の LNG 輸入量は、前年度比 5%減の 7650 万トンとなった（2019 年暦年は 7733 万トン）。

北東アジア 4 大市場全体としては、2020 年第 1 四半期の LNG 輸入量は、前年同期比 3.4%増、176 万トン増の 5339 万トンとなったが、前記の通り韓国の増加が牽引した。もっとも、韓国の LNG 輸入は 2019 年第 1 四半期に前年同期比 20%減となっていたので、2020 年第 1 四半期には 2018 年同期水準に復帰したに過ぎない。また中国の LNG 輸入が前年同期比 2.2%増、33 万トン増と過去数年間の高水準を大きく下回った。このため北東アジア市場全体として、前年同期比増加とはいっても、2018 年比では 1%マイナスとなった。

4 月上旬に公表された GIIGNL（世界各地の LNG 輸入企業が加盟する国際団体）年次報告によると、2019 年世界の LNG 貿易量は 3.55 億トン（前年比 13%増）、この内短期取引（期間 4 年以下の契約に基づく取引）は 1.2 億トン・全体の 34%（2018 年は 32%）、さらにこの内取引成立から引き渡しまで 3 ヶ月以内のスポット取引は 9500 万トン・全体の 27%（2018 年は 25%）となった。いずれも堅調な増加だったが、コロナ拡大・原油価格急落前の状況を反映したものである。

また 2019 年について、アジア価格低下に伴い、欧州向け LNG 引き渡しが増幅に増加したが、上記データと各生産地・消費市場間の輸送距離を勘案して試算による、加重平均した 2019 年の LNG 輸送距離は、世界全体で、前年比 1%減の約 7,400 km 弱、世界各地に向けて出荷された米国産 LNG の加重平均された輸送距離は、前年比 5%減の 12,000 km 強となった。

原油価格崩落と同時に、世界各地のガス価格も下落している。4 月下旬現在、米、欧州先物翌月渡し、北東アジアのアセスメントされたスポット LNG 価格期近渡し分、いずれも 100 万 Btu 当たり 2 米ドルを下回っている。特に米国産 LNG が欧州北西部に持ち込むのはコスト的に難しくなっている。

各地需要減少に伴い、LNG 買主企業の多くが、カーゴ引き取りの延期・削減を交渉していることが伝えられている。数量の削減、延期も大規模となれば、特

* 化石エネルギー・国際協力ユニット ガスグループ

に米国を中心に、LNG 生産設備の一時停止可能性も現実味を帯びてくる。

現在稼働している LNG プロジェクトは、感染を防止し安定供給を継続するため、多大な努力を払っている。将来のプロジェクトに向けての投資活動の減速は顕在化している。既に投資決定済み・建設中のプロジェクトも、従事する人々の安全・健康を確保しながら遂行していくことが肝要であり、かつ様々な資機材・サービス確保の上で制約も出てくることから、今後スケジュール・将来実現される LNG 供給キャパシティは慎重に見極めていかななくてはならない。

[アジア太平洋]

中国 NDRC（国家発展和改革委員会）によると、2020 年第 1 四半期天然ガス消費量は前年同期比 1.6%増の 785 億 m³ に留まり、天然ガス生産量は 7.9%増加して 478 億 m³ となった。

中国石化（Sinopec）は、天津基地増設各 220,000 m³ タンク 5 基・新規棧橋 1 本の第 2 段階建設を開始した。同基地容量は現在の年間 600 万トンから、2021 年末までに年間 1080 万トンに拡張する。

中国の GCL（協鑫石油天然气有限公司）が Shell との間で、中国東部での LNG 販売・トレーディングのための合弁事業を検討するための枠組協定を締結した。前者は山东省烟台、江苏省如東、广东省茂名に受入基地を計画している。

中国の佛燃能源は、BP と、年間 600,000 トンの LNG 購入契約を締結した模様。

中国 惠生海工は、自社 200,000 m³ LNG 輸送船舶（200K-LNGC）の設計が認証機関 DNV から原則承認（AiP）されたことを発表した。

新造 LNG 輸送船舶 Saga Dawn（45,000 m³）がシンガポール Singapore LNG 基地で最初のカーゴ積み込みを完了した。同船は、世界初の LNT Marine 特許の LNTA-BOX 設計に基づく、IMO タイプ A LNG 積載システムによる LNG 輸送船舶である。Saga LNG Shipping は現在、中国への輸入を目的とした、9m の満載喫水を備えた 80,000 m³ の LNG 輸送船設計開発の最終段階にある。さらに、長江沿い輸送を目的とした喫水浅い 28,500 m³ の「Wuhan Max（武漢マックス）」と 12,000 m³ の「Yichang Max（宜昌マックス）」の設計について、基本設計承認（AiP）を取得している。

インド石油類・天然ガス省 PPAC による天然ガス報告 2020 年 1 - 3 月号によると、同年第 1 四半期の天然ガス生産は 10.5%減少したが、天然ガス消費は 3.5%増加、LNG 輸入は 37%増加となった。肥料製造部門の LNG 消費が大幅に増加した。

豪ニューサウスウェールズ（NWS）州当局は、Port Kembla 基地が冬季に取扱量を増やせるよう基地設計変更なしで容量を増加する AIE による申請を承認した。

豪 Venice Energy は、サウスオーストラリア州 Outer Harbor 浮体 LNG 輸入基地プロジェクトの最終投資決定（FID）を 2021 年 2 月までに実施し、同年末までに稼働開始を目指す。同社は初年度 80 PJ（147 万トン）、その後年間 140 - 150 PJ（257 - 276 万トン）の

取り扱い量を想定している。同プロジェクトは浮体貯蔵気化機器 (FSRU)、および 500 MW ガス火力発電設備の 2 段階での建設を含む。同社は基地投資決定後、発電設備の政府許可確保、2024 年までに同発電設備の稼働開始を計画する。基地に関しては加工手数料方式での運営を計画している。

Shell 豪州会社は、Arrow Energy 合併事業のクィーンズランド州 Surat Gas プロジェクト第 1 段階の最終投資決定 (FID) を行った。この段階は生産最盛段階で年間 900 億立方フィート (187 万トン相当) のガスを生産し、Shell 傘下の QGC 向けに、地元市場向けガス販売、Curtis Island 設備を通じての輸出用に用いられる。ガス生産開始は 2021 年を見込む。

豪ピルバラ港湾当局 (PPA) は、ポートヘッドランド、ダンピア両港湾での船舶間移送での LNG バンカリング供給ライセンスを Woodside に発行した。

豪 Woodside は、JERA、丸紅、IHI と、日本の石炭火力発電の脱炭素化に用いるべく、アンモニアとして水素を大規模輸出する可能性についての共同研究を行う協定を締結した。この企業連合は、水素・アンモニア方式バリューチェーン全体を対象とする事業化調査に NEDO から承認を得ている。この研究では、世界級のアンモニア設備建設・操業、供給チェーンコスト最適化を検証する。Woodside は輸出用水素について、ブルーからグリーンへの移行を検討する。ブルー水素は、スチームメタン改質を用いて製造され、炭素排出総裁と組み合わせる。グリーン水素は電気分解により再生可能エネルギーから製造される。いずれも水素が窒素と化合しアンモニアを形成、液体として出荷を可能とする。

Shell は、西豪州沖 Crux ガスプロジェクトに関して、最終投資決定 (FID) を、当初計画していた 2020 年よりも先送りすることを決めた、と述べた。

豪 Santos は、Barossa ガス田持分 12.5% を JERA に売却する覚書 (LOI) を締結したことを明らかにした。JERA は Darwin LNG の 6.1% を既に所有している。Santos による JERA との今回の LOI 締結は、Barossa の Darwin LNG への後継原料ガス供給源としての開発に向け、Darwin LNG ・ Barossa 両合併事業間のパートナー配分の整合性を進めることとなる。今回の LOI は、Darwin LNG 持分 25% の SK E&S への売却合意に続くものとなる。

[北米]

複数報道によると、アジア、欧州の LNG 買主達が、2020 年 6 月分米国産 LNG 約 25 - 30 カーゴの引き取りをキャンセルしている模様。

米 ConocoPhillips は、経済的理由が成り立つ地域での原油生産を削減する意向を明らかにした。資本的支出は 2020 年について発表していた指針よりも合計 23 億米ドル、35% 削減する。同社は、2020 年第 1 四半期、前年同期の 18 億米ドルの利益に対して、17 億米ドルの損失となったことを明らかにした。5 月分は原油日量 26.5 万バレル削減を見込む。6 月分は 46 万バレルを見込む。

Cheniere は 2020 年第 1 四半期 3.75 億米ドルの純利益を報告した。自社液化プロジェクトより LNG 128 カargo が輸出された。キャンセルされた LNG カargo 関連で 5300 万米ドルの収入があった。

米連邦エネルギー規制委員会 (FERC) は、**Cameron LNG** 第 3 系列コミッション開始を承認した。**Cameron LNG** は第 1 系列を 2019 年 8 月、第 2 系列を 2020 年 2 月に稼働開始している。

FERC は、年間 1350 万トン液化容量を追加するテキサス州 **Port Arthur LNG** 第 2 段階拡張プロジェクトの環境審査日程を明らかにした。環境評価書 (EA) を 2021 年 1 月 15 日に公表見込み。同プロジェクトに法的管轄権を持つ他連邦諸機関は同年 4 月 15 日までに審査を完了しなくてはならない。なお、**Sempra Energy** は、**Port Arthur LNG** 最終投資決定 (FID) は 2021 年に見込む、と述べている。

千代田化工建設、**McDermott**、**Zachry** は、米テキサス州 **Freeport LNG** プロジェクト第 3 系列の商業運転を開始したことを明らかにした。

FERC は、**Elba Island LNG** 第 8 系列への原料ガス導入を承認した。同設備モジュラー系列 10 本中、既に 6 本が稼働しており、2 本がコミッショニングを開始している。

Tellurian は、無担保債券 5000 万米ドル・自社普通株式 2000 万株購入のワラント提供による 5600 万米ドル分のゼロクーポン債販売契約を締結したことを明らかにした。また 2019 年の融資契約について、元本 1710 万米ドル削減の契約修正も締結した。キャッシュで 210 万米ドルを償還するとともに、1500 万米ドル分を融資者向けに約 930 万株を発行し、さらに普通株式 470 万株を購入するワラントを提供する。

NextDecade は、**Bechtel** とのテキサス州 **Rio Grande LNG** プロジェクトの EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約の有効期間を延長した。

Venture Global LNG は、ルイジアナ州キャメロン郡 **Calcasieu Pass LNG** 輸出設備 LNG タンク 1 基目の屋根揚完了を発表した。**McDermott International** 子会社 **CB&I Storage Tank Solutions** が 200,000 m³ タンク 2 基を建設している。海洋境界壁・波止場も 3 ヶ月先行で完成した。最初のパイプラインのモジュールは 4 月に到着・据え付けられた。720 MW コンバインドサイクルガスタービン発電設備機器は 5 月から到着予定となっている。

Magnolia LNG プロジェクトを推進する **Liquefied Natural Gas Limited (LNGL)** は、**LNG-9 PTE LTD (LNG9)** が、買収案を撤回したことを通知した旨、明らかにした。LNGL は、双方受け入れ可能な取引構造を見出すべく LNG9 との話し合いを続ける。なお LNGL 取締役会は、退任の上、**PricewaterhouseCoopers Australia** より管財人が指名された。

米西海岸 **Jordan Cove LNG** プロジェクト推進企業 **Pembina Pipeline** は、液化設備・ガスパイプラインの建設を承認した 2020 年 3 月の指令に関して、いくつかの点を修正することを FERC に申請した。パイプライン容量について 1 年以上前に契約されているべきことを求め、プロジェクト用地に関わる土地の一部が特別歴史的保護対象となり得るとする FERC の判定に異議を唱えている。

Shell は、米アパラチア地域でのシェールガス資産を売却することで、National Fuel Gas Company (NFG) と合意に達した。取引発効日は 2020 年 1 月 1 日付、完了は 2020 年 7 月末を見込む。現在の純生産は、最大日量標準 2.50 億立方フィートとなっている。この取引には、Shell 所有・操業の中流インフラストラクチャー移管も含まれる。

米国最大天然ガス生産企業 EQT は、2019 年第 1 四半期 1.91 億米ドルの利益に比して、2020 年第 1 四半期、1.67 億米ドルの純損失を計上した。しかし同社は COVID-19 による在宅勤務制約あるいは COVID-19 直接影響による業績上の悪影響は限定的だったと述べた。石油価格戦争の自社事業への直接影響も限定的と見込んでいる。

米デンバーに本社を置く Ovintiv (元カナダの EnCana) は、2019 年第 1 四半期の 2.45 億米ドルの純損失から、2020 年第 1 四半期は 4.21 億米ドルの純利益に好転したことを明らかにした。

LR (Lloyd's Register) は、カナダのブリティッシュコロンビア州キティマットの新規 LNG 設備の安全建設に向け LNG Canada を支援する 55 ヶ月間の契約を締結した。

カナダ Pieridae Energy は、Goldboro LNG 設備について、2020 年最終投資決定 (FID) を行わないことを明らかにした。同社は、ドイツ Uniper との 20 年契約下の主要期限の延長に合意したことを明らかにした。Uniper 向けガス引き渡し開始は 2025 年 8 月 31 日から 2026 年 2 月 28 日の間に開始、Goldboro LNG 設備 FID 期限を 2021 年 6 月 30 日に延期、等が含まれる。Uniper との 20 年契約は、Goldboro 第 1 系列生産 LNG、年間 480 万トン分である。

カナダ最大の天然ガス生産企業 Tourmaline Oil は、2020 年第 1 四半期業績を公表した。前年同期 8770 万カナダドルの純利益に対して、当期は 3580 万カナダドル (2530 万米ドル) の純損失となった。その主たる要因は石油比重高い資産の評価損としている。

メキシコ西海岸に位置する Mexico Pacific Limited (MPL) LNG 輸出プロジェクトは、フィナンシャル・アドバイザーを三菱 UFJ フィナンシャル・グループに委託したことを明らかにした。

[中東]

Petrofac は、アブダビ Abu Dhabi National Oil Company (ADNOC) から Dalma ガス開発プロジェクト向けの 2 契約解除の通知を受けた。Petrofac は引き続き同プロジェクト実現のための代替選択肢を ADNOC と話し合っている。

カタール Qatar Petroleum (QP) は、North Field East プロジェクト (NFE) (従来 North Field Expansion プロジェクト) 開発掘削に着手したことを発表した。この NFE では LNG 生産容量を年間 7700 万トンから 1.10 億トンに拡張する。第 2 段階 North Field South (NFS) プロジェクトは 1.26 億トンに拡張する。また QP は、NFE/NFS 含め将来の船腹需要に活用するべく中国の造船容量を予約する契約を、中国船舶工業集团公司 (CSSC) 傘下の沪东中华造船 (集团) 有限公司 (Hudong) と締結した。Qatargas は、在来型 LNG 輸送船舶につ

いて、日本の LNG 基地での荷揚作業の際、燃料源として LNG ボイルオフガスの利用プログラムを開始した。

[アフリカ]

エジプト Damietta LNG 輸出設備に関わる諸紛争解決のためのスペイン Naturgy、イタリア Eni、エジプト政府間の合意が不調に終わったことを Naturgy が明らかにした。

Golar LNG は、セネガル/モーリタニア Greater Tortue Ahmeyim プロジェクトについて BP からフォースマジュール通知を受けた。この通知は、感染拡大により、BP は 2022 年の目標接続期日までに浮体 LNG 生産設備 GIMI を引き取る準備ができない、としている。Golar は遅延期間、FM 事象影響程度を確認すべく BP と話し合っている。

ExxonMobil は 2020 年資本的支出を 30%削減すると述べた。従来明らかにしていた 330 億米ドルから、230 億米ドル程度に切り下げる。最大の部分は米 Permian 盆地となる。モザンビーク Rovuma LNG プロジェクト最終投資決定 (FID) は延期された。Coral LNG 開発は計画通り進められる。

モザンビーク保健省は、国内感染件数の中に LNG プロジェクト従事者が含まれていることを明らかにした。

[欧州・ロシア]

英国石油・ガス上流部門規制機関 OGA は、2050 年までにネットゼロ温室効果ガス (GHG) 排出を達成する政府目標を支える業界の義務を含め、中核目標を更新する計画を示した。OGA は、石油・ガスの経済的回収を最大化することはネットゼロ移行と矛盾せず、業界は英国のネットゼロ実現を支援するソリューションのための熟練・技術・資本を有していると考えている。しかし OGA は、業界は自身のカーボンフットプリントを削減すべくもっと迅速・大きく進むべきであり、そうでなければ操業するソーシャルライセンスを失うこととなるという見解である。

Shell は、2050 年までにネットゼロ排出事業体となる計画を投資家に説明した。ステップとしては以下の通り。 [1] 自社製品生産について 2050 年までに排出ネットゼロ [2] 自社顧客向けに販売するエネルギー製品のネットカーボンフットプリントを 2050 年までに 65% (50%から引き上げ)、2035 年までに 30% (20%から引き上げ) [3] 2050 年までにネットゼロ排出となる事業・部門に軸足を置く。

Fosmax LNG は、Fos Cavaou LNG 基地容量申し込み手続き (OSP Fos Cavaou 2020) を開始した。技術的なデポトルネッキングにより追加容量を提供する。2021 年 1 月から 2030 年 3 月に最大年間 10 億 m³ アクセスを提供するもので、既に利用可能な一次容量年間 10 TWh、追加新規容量 3 TWh で構成する。これにより Fos Cavaou LNG 基地容量は年間 85 億 m³、100 TWh となる。手続き的には非拘束関心表明 2 ヶ月、拘束力ある申し込み期間 2 ヶ月間により構成されることとなる。

Total の 2019 年第 1 四半期キャッシュフローは 31%減の 45 億米ドルとなった。純利益は 35%減の 18 億米ドルとなった。統合ガス・再生可能エネルギー・電力 (iGRP) 部門は、LNG 販売 30%近い増加、自社 LNG 生産の販売価格堅調により、キャッシュフローが 40%増加の 9 億米ドルとなった。再生可能エネルギープロジェクトへの参加は、インド、カタール、スペインを中心に増加、総容量は 6 GW を超えている。

Total は 2050 年までにネットゼロ排出に至る構想を明らかにした。この実現に 3 主要方針を掲げる。1. 自社世界操業 (スコープ 1+2) で 2050 年までにネットゼロ実現 2. 欧州で自社顧客が使用する自社生産・エネルギー製品 (スコープ 1+2+3) で 2050 年までにネットゼロ実現 3. 世界全体で自社顧客が使用するエネルギー製品の平均炭素集約度を 2050 年までに 60%以上削減する (27.5 gCO₂/MJ 未満とする) こと、その中途 2030 年までに 15%、2040 年までに 35%削減する (スコープ 1+2+3)。この構想は、石油・ガス、低炭素電力、炭素中立ソリューションを提供する総合エネルギー企業戦略により裏付けられる。スコープ 3 平均炭素集約度 2050 年までに 27.5 gCO₂/MJ 未満というメジャーズ中最高の目標を設定する。

Total は、LNG 推進方式の VLCCs (大型原油輸送船舶) 最初の 2 隻の備船契約を締結した。この 2 隻は 2022 年引き渡し予定で、マレーシアの船主 AET よりとなる。燃料用 LNG は **Total Marine Fuels Global Solutions** が供給する。

ドイツ **Uniper** の 2020 年第 1 四半期業績は、EBIT (利払前・税引前利益) 6.51 億ユーロ、純利益 4.99 億ユーロだった。多様化・柔軟なガス貯蔵・最適化ポートフォリオ等、ガスビジネスの好調が貢献している。電力価格上昇・発電量増加で、水力発電・原子力発電設備の収入が増加した。また英国容量市場の再開も前向きに作用した。

同社子会社 **Liqvis** による、トラック向けの LNG 燃料充填ステーションがドイツ中部カッセルに開業した。同社 2 件目の固定型 LNG 燃料充填ステーションで、移動型ステーションに代替する。今回と、ベルリンに近いグリューンハイデで開業済み 2 件の固定型ステーションに加え、**Liqvis** は今後数ヶ月間に数件のプロジェクトを計画している。フランス北部カレーで 1 件既に建設中、ハンブルグ近くのローゼンガルテン、ハノーバー近くのランゲンハーゲンで承認手続きを進めている。

フィンランド **Gasum** 子会社で、ドイツのハンブルグに本拠を置く LNG 供給企業 **Nauticor** は、エルベ川沿いブルンスビュッテル港で、石油製品タンカー向けに初の船舶間移送 (STS) での LNG バンカリングを実施した。

Tallink Grupp は、自社最新エコ型 LNG 燃料シャトルフェリー **MyStar** 建造がフィンランド **Rauma Marine Constructions (RMC)** 造船で開始されることを明らかにした。引き渡しは 2022 年 1 月で計画している。タリン・ヘルシンキ間で運航する。

フィンランド **Gasum** は、2020 年夏、高負荷車両向け新規燃料充填ステーションを 1 件開業する計画である。リエト地域に設置され、LNG、液化バイオガス (LBG) を供給する。今回の新規ステーション、トゥルクの既存ステーションとも、同国南西部の顧客、企業向け

に供給する。

スペインの競争規制機関 CNMC は、LNG 気化基地・輸送網・地下貯蔵の容量を配分する新方式を承認した。ガスシステム上の容量契約に関心を持つ様々な企業の競争入札方式で実施されるもので、2020 年 10 月より実施される。

スペイン Enagás は、2020 年第 1 四半期純利益が前年同期比 14.7%増の 1.191 億ユーロとなったことを明らかにした。米国 Tallgrass Energy への間接所有株式を 30.2%に増加した。天然ガス輸送量は前年同期比 2.4%減少した。Enagás は 2050 年までに炭素中立性を達成すべき道筋を設定している。

スペイン Naturgy はその四半期業績報告において、「新たな現実」に対応すべく、ガス供給契約を個別に再交渉する意図を示し、必要ならば仲裁可能性も除外していない。

イタリア Eni は 2020 年第 1 四半期、前年同期の純利益 11 億ユーロに対して 2020 年同期は 29.3 億ユーロの純損失となった。主として在庫を市場価値に合わせて修正計上したことによる。特別損失としては、石油・ガス資産、デリバティブの公正価値見直しによる減損も含まれる。

イタリアのガス輸送網操業企業 Snam は、2020 年第 1 四半期純利益が前年同期比 5.3%増の 2.98 億ユーロになったことを報告した。料金見直しによる被規制収入の増加に加え、国際ビジネス、エネルギー移行に関わる非被規制収入の増加もあった。

ロシア NOVATEK は、2020 年第 1 四半期業績速報値を公表した。炭化水素生産は、総計原油換算 1.502 億バレル相当、天然ガス 190.8 億 m³、液体（ガスコンデンセート・原油）304.8 万トンと、前年同期比 2.1%増となった。LNG 含む天然ガス販売は 206.9 億 m³と前年同期比 6.8%減となった。国際市場販売減は、NOVATEK 分含む Yamal LNG 株主のスポット市場 LNG 販売減、長期契約での Yamal LNG 直売増加による。同社は 2020 年の資本的支出を、石油関連プロジェクト中心に 5 分の 1、500 億ルーブル（6.76 億米ドル）削減する一方、LNG・主要国内向けプロジェクトの投資コミットメントは維持している。なお Obsky LNG 設備の最終投資決定（FID）を延期し、稼働開始の延期を検討している、と述べた。同設備は 2022 - 2024 年より年間 480 万トンの LNG 生産を見込んでいる。

なお、ムルマンスク自社設備での事業活動は通常通り継続するとしている。Novatek-Murmansk は Arctic LNG-2 プロジェクト向け GBS（コンクリート製洋上着床型構造物）建造のための設備を建設している。

ロシア NOVATEK は完全所有子会社 Arctic LNG 1 が、ギダン半島 Bukharinskiy ライセンス地域の地質調査・探査・生産に向けたライセンス SLH 16637 NR を取得したことを明らかにした。このライセンス地域はヤマルネッツ自治区（YNAO）オビ・タス湾浅海地域に部分的に喰い込んでおり、2050 年までの期間を対象に取得された。ライセンス条件によると、この資源基盤は、YNAO・隣接水域の液化設備の LNG 生産に用いられる。今回のライセンス地域は、Geofizicheskiy・Trekhubgorniye ライセンス地域、Soletsko-Khanaveyskoye ガス田と近くに位置している。Arctic LNG 1 は同社の次段階の大規模

LNG プロジェクトとして、これらライセンス地域を所有している。

ロシア **Chayanda** ガス田で、労働者達が感染拡大絡みで労働条件改善、情報透明性を求め抗議行動を行った模様。

ロシア **A-Property** は、ヤクーチャで 2025 年までに完成しアジア向けに LNG 販売を目論む LNG 設備設計に **TechnipFMC** を指名した。

[グローバル、原油市場]

Shell は、2020 年第 1 四半期の中間配当を 1 株当たり 0.16 米ドルと、前年同期の 0.47 米ドルから引き下げたことを発表した。1940 年代以来の配当引き下げとなる。**BP** は 2020 年第 1 四半期業績について、純利益ベースで前年同期の 29.34 億米ドルの黒字から、43.65 億米ドルの損失に転落したことを明らかにした。上流部門生産は、2.9%減の原油換算日量 258 万バレル相当となった。

米 **ExxonMobil** は、2020 年第 1 四半期業績について、前年同期の利益 24 億米ドルから大きく落ち込む推定 6.10 億米ドルの損失を報告した。**Chevron** は 2020 年第 1 四半期業績について、前年同期 26 億米ドルから増加となる 36 億米ドルの利益を報告した。しかし今後の数四半期については、現在の市場環境が続く限り、業績悪化の見込み、と慎重な見方を示した。

参考資料: 各社発表, Reuters, 中国石化新闻网, Gulf Times, AllAfrica, Moscow Times, «Новая газета», «Коммерсанте», Cedigaz News Report.

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp